2024年の振り返りと来年への提言

タイプ別シェアを見直し 4円パチンコの業績回復を

文=片瀬宏之（ダイコク電機　MG推進部 プロフェッショナル・首席講師）

4円パチンコと20円パチスロの二極化が進んだ2024年。
各種別の中でも、好不調の差が大きく表れ始めている。
こうした中でどのような戦術を採ることが最適なのか。
ダイコク電機の片瀬宏之氏に、今年の振り返りと来年の提言として寄稿してもらった。

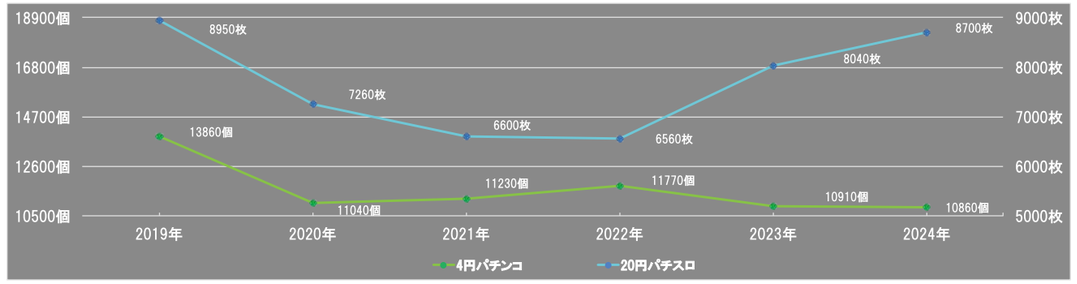
表1

4円パチンコ

地区	項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
全国	アウト	13860個	11040個	11230個	11770個	10910個	10860個
	売上	20,900円	17,500円	19,200円	21,300円	20,600円	21,000円
	粗利	3,200円	2,660円	2,930円	3,270円	3,250円	3,320円
	遊技時間粗利	1,100円	1,140円	1,240円	1,320円	1,440円	1,480円
	台数シェア	34.1%	34.5%	35.9%	36.4%	34.9%	33.5%

20円パチスロ

地区	項目	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
全国	アウト	8950枚	7260枚	6600枚	6560枚	8040枚	8700枚
	売上	24,500円	19,800円	16,400円	15,900円	21,400円	24,200円
	粗利	3,360円	2,720円	2,330円	2,180円	2,880円	3,060円
	遊技時間粗利	840円	840円	790円	750円	820円	810円
	台数シェア	32.1%	32.3%	32.1%	32.1%	33.9%	35.1%



※2024年は1月1日～10月13日までのデータ

今年も残すところあと2カ月となりました。昨年末は業績好調なスマスロの販売機種数が多く、どの機種を最も多く導入するか、パチンコでは『Pシン・エヴァンゲリオンX』、『eシン・エヴァンゲリオンZ』を何台導入し、『P新世紀エヴァンゲリオン15 未来への咆哮』の台数をどうしたらよいかと、多くの企業様で話題となりました。

私もお客様から相談を受けて、『Lモンキーターン V』がゲーム性、ツラヌキ、スペック的に出玉バランスも良く、販売価格が9台目は100円とインパクトがあったため、「9台購入しましょう」とお答えしていました。

『Lモンキーターン V』はファンの人気を集めて、稼動貢献44週継続中、累計台粗利約153万円と大活躍。『Pシン・エヴァンゲリオンX』も38週の総合貢献で、累計台粗利136万円であったため、どちらも多少多めの導入であっても店舗業績に貢献できたのではと思います。

ただし『Pシン・エヴァンゲリオンX』を大量導入された店舗に関して、年末年始は粗利確保の営業で問題ありませんでしたが、2月以降は『Pシン・エヴァンゲリオンX』、『P新世紀エヴァンゲリオン15 未来への咆哮』ともに甘い活用で営業しないと、アウトの下落が大きくなり始めたため大変だったと思います。

7月末頃にはSISデータにおいて『P新世紀エヴァンゲリオン15 未来への咆哮』のアウトが『Pシン・エヴァンゲリオンX』を上回りましたが、8月、9月と『P新世紀エヴァンゲリオン15 未来への咆哮』の玉粗利は『Pシン・エヴァンゲリオンX』よりも全国的に高く（認定まで取って今後も使っていくつもりであれば、アウトの高い機種を薄利にした方が効果的）、現在でも今後のエヴァの戦略に悩まれていると感じます。

それでは2024年の業績を見ていきましょう。表1は4円パチンコと20円パチスロの年間業績推移データになります。4円パチンコのアウトは過去最低となった2023年をすでに下回り、残念ながら今年も過去最低を更新しそうです。

遊技機としてはパチンコでラッキートリガー搭載機が3月から登場し、販売台数が少なめということとも重なり、好業績を残す機種が多数登場しました。業績が厳しい4円パチンコ市場では、ラッキートリガー搭載機によってファンの人気を集める機種が登場しましたが、高い遊技時間粗利の営業が改善されることはなく、年間の遊技時間粗利は過去最高の1480円となっています。

一方20円パチスロはV字回復が継続し、アウト、売上、粗利、昨年を大きく上回る対効果が高く、好円パチスロのシェアSIS開始以降初台数シェアが4円業界で最大シェアた。これは2024な出来事の一つと思

続きはデジタルブックでご覧いただけます。
詳細はこちら